

第2章 いじめの未然防止

5 「学校行事」「生徒会活動」を通して（高等学校編）

小・中学校に比べ学校行事が少ない高等学校では、学級あるいは学年の枠を越えた絆や団結力を強めたり、学級のアイデンティティを確立したりする重要な絶好の機会として学校行事を位置づけることが大切である。

一方、集団の構成員が多くなることから意思疎通が困難になるなど、後のトラブルやいじめに発展する要素も多く、行事の準備期間から当日、事後まで教師が生徒を注意深く観察し、必要に応じて関わる場面も発生する。しかし、こうしたトラブルを生徒自身で解決し乗り越えていくことで、問題解決や人間関係を構築する力を高めるための大きな学びの場ともなる。

いじめ防止の観点からは、「教師の観察と支援」と「生徒自身の困難を乗り越える力の育成」という2つの視点をもつことが重要となる。

1 「体育祭」の取組を活かしてよりよい集団づくりを

学校行事の中でも体育祭は生徒の自主的活動の時間も関わる人数も多いことなどから

- ・同じ目標に向かって意欲的に活動する中で生まれる連帯感や達成感、集団の団結力。
- ・任された役割をまっとうすることで得られる自己有用感。

といった集団づくりや個々の成長の上でのプラス面が大きく、こうした特長を生かすことで実効性のあるいじめ防止の取組となり得る。教師がまずこのプラスの側面を大切にし、適切に関わることで、いじめを未然に防ぐ力が学級や生徒に培われる。

2 「体育祭」において予想されるトラブル

体育祭は、勝負へのこだわりから生徒間にストレスや不満がたまりやすいことから

- ・リーダーなど特定の生徒のみに熱が入り、過度に順位にこだわったり、自分たちの理想を他の生徒に押し付けたりすることによる人間関係のこじれ。
- ・活動の進捗状況の遅れから始まる、そのきっかけとなった特定の生徒への個人攻撃。
- ・リーダーや責任者を希望する生徒が複数いた場合のトラブル。
- ・縦割りの活動における上級生に対する下級生の（下級生に対する上級生の）不満の蓄積。

など、いじめに発展しかねない状況の発生が予想される。そこで、教師は準備段階から行事終了後に至るまで生徒の様子を見守り、小さな兆候も見逃さないようにする。「あくまで生徒の自主的活動」として生徒の活動から距離をとることは、いじめを見逃すことにつながるおそれがある。

教師の関わり方のポイントとしては

- ・トラブルや問題点を予想し、その対策やルールを事前に考える（生徒に考えさせる）。
- ・それでも問題は起こる場合は総力をあげて解決する体制づくりをする。
- ・問題が発生した際は状況判断を的確に行い、生徒自身で問題を乗り越える観点を保持しながら適切な助言を行う。

といった点があげられる。

3 教師の関わりの実践例…リーダーとなる生徒の事前打ち合わせを例に

(1) 指導目標

ア 体育祭を通じて集団の団結力と個人の自己有用感の両方が育まれるよう、自発的・自主的活動を尊重しながら、教師が適切な指導や支援を行う。

イ 集団内に他者を尊重し、互いを思いやる雰囲気醸成する。

ウ リーダーを中心に生徒自らが予想される失敗やトラブルを話し合うことで、いじめに発展しかねない現象を生徒自身で防ぎ、困難を乗り越えることができるよう導く。

(2) 指導計画（放課後およびロングホームルーム等 3 時間分）

1 時間目（本時）	リーダーによる事前打ち合わせ	企画内容等の決定、ルール決め
2 時間目	担当パート、種目決め（ロングホームルーム）	分担の決定、打ち合わせ
3 時間目	1～3 年全体で結団式	企画や今後の予定の説明

(3) 本時の流れ

ア 学級委員、正副団長、パネル、衣装等の各リーダーを招集し、次回ロングホームルームで検討する団のコンセプトや企画内容、作業手順などの原案を作成する。その際に、体育祭を通じて学級が目指す姿を考えさせ、さらには作業の過程で予想される困難やトラブルをあげ、あらかじめその対応策を検討し簡単なルールを決める。

イ 展開（50 分）

	活動内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 教師による、事前の準備の必要性とこの時間の意義・目的の説明を聞く。学級委員が進行役をする。【5分】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主的・自治的活動の部分は尊重する。 体育祭を通して個も集団も成長するために「目指す姿」の必要性を説明する。
展開①	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭を通して学級が目指す姿を設定する。 過去の学校行事等の経験を参加者みんなできり返り、「よかった工夫」「うまくいかなかった場面」などを出し合い、これを踏まえて今後予想されるトラブルや心配事について整理する。 予想される問題点について、対策や事前に決めておくべきルールについて話し合う。【25分】 <p>※ルールとしては、次の例が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎他の用事や部活動などで活動に参加できない生徒を攻撃しない。 ◎SNSの使い方について。 ◎下級生への接し方（威圧的にならないなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級が目指す姿については、教師が「団結」「全員参加」「協力（協働）」などキーワードを用いながら、適切な方向に導く。 目指す姿を設定することで、問題が生じた時にはそこに立ち返って検討・相談ができることを伝える。 ルール決めにおいては、学校行事の場面で人間関係がこじれるケースが多いことをあらかじめ生徒に伝える。 真剣に議論でき、かつ自由に自分の意見が話せる雰囲気があるか観察する。 教師の立場から想定できるトラブルについて意見が出ているか観察し、必要に応じて助言する。
展開②	<ul style="list-style-type: none"> 企画内容（コンセプトなど）のアイデア、各係に必要な人数、道具等を出し合う。【15分】 	<ul style="list-style-type: none"> 学級委員が展開①で決めた目指す姿やルールに沿って公平に意見をまとめられるよう導く。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 全体的話し合いをまとめ、ロングホームルームで適切に他の生徒に伝えられるように準備する。【5分】 	<ul style="list-style-type: none"> 決定した内容について、参加生徒全員の合意形成がなされたか確認する。

ウ その後のロングホームルームの展開（50 分）

	活動内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標と、体育祭を通して学級が目指す姿の説明【5分】 	<ul style="list-style-type: none"> 本時で決めることと、その説明・進行を確認する。 団長がリーダー会議で定めた学級の目指す姿について適切に説明したか、学級全体が理解しているか観察する。

展開	①係分担決め 【10分】 ②今後の計画作成 (グループ協議) 【15分】 ③出場種目決め 【10分】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成員は疑問や不安についてリーダーに自由に問うことができるよう配慮する。また、リーダーは他の生徒の意見を聞き、全生徒が主体的に話し合いに参加できるようにする。 ・ 問題が生じた際には、学級が目指す姿に立ち返って、解決への方策を考えさせる。 ・ 係分担が公正に決定し、希望がかなわなかった生徒に対しては適切な配慮をするよう促すことで、全体の合意を形成する。
まとめ	①本時の決定事項の確認 ②リーダー会議で話し合った団の「ルール」の説明 【10分】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団内のルールについて、その理由も含めて適切に説明がなされているか確認する。また、構成員も団内のルールについて理解しているか観察する。 ・ 直面した困難に対しても団全体で乗り切る決意を促す。 ・ 必要があれば教師に相談するよう助言する。 (例：団長によるルールの説明) <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事が特定の人に偏ると不平不満が大きくなり、参加できない人の悪口など団の団結を損なう事態が予想されます。そこで、活動に参加できない場合は事前にリーダーに連絡し、できるときに協力してください。作業の遅れについては、係の枠を越えてみんなで協力して作業に当たりましょう。 ・ 参加できない人を攻撃することはやめましょう。特にSNSへの悪口の書き込みはいじめに発展する危険もあるので厳禁です。その場合は先生に相談します。もし困った事態が起こったら、まず団長の私に相談してください。

4 「それでもトラブルは起こる」という認識を

丁寧に活動を進めていても、予期せぬ人間関係のこじれやいじめに類する行為が発生する場合がある。共同作業の場面が多い体育祭では、特に意見のすれ違いや思うように作業が進まない苛立ちから思わず他者を攻撃してしまったり、人間関係が変化(仲良しグループの構成員が変化)してしまったりすることで、対立が生じるケースが考えられる。

そこで教師による注意深い観察と的確な判断が必要となるが、必要以上に関わると生徒自身の問題解決力の育成を損ねたり、学びの場が失われたりすることになる。いじめ防止の観点から考えると、「いじめが悪化しないようにする」視点と「トラブルを乗り越えられる集団・個を育てる」視点の両方が必要であり、自治的活動として生徒が問題に対処するときは見守る時間を設けるなど教師が生徒を信用することで、生徒が期待に応えようとする力を引き出すこともできる。教師がどの程度問題解決に関わるかのポイントや具体例として

- ・ 状況を把握し吟味した上でリーダー会議を招集し、生徒自身で解決できるのか話し合いをもたせる。あるいは意見を聞く。リーダー達の困り感を理解しつつも、生徒自身で問題を乗り越えようとする力を引き出す。
- ・ 生徒自身が問題を解決しようとする際は、トラブルの周辺生徒(当事者以外)を巻き込んで全体で問題解決に当たるよう指示をする。
- ・ 学級全体(団全体)に対しては、先のロングホームルームで決めたルールや学級が体育祭を通じて目指す姿に立ち返って問題を考え、乗り越えることを助言する。トラブルの当事者がリーダーである場合も学級の目指す姿に立ち返らせることで自分の行為を振り返らせる。
- ・ 生徒からヘルプの声が上がった場合は中心となって問題解決に当たる。トラブルの当事者に対しての聞き取りや当事者が参加する話し合いには、必ず教師が立ち会う。

などがあげられる。

また、体育祭は結果が「順位」という形で示されるので、生徒が落ち込むなど感情的になりやすいため行事終了後も注意が必要である。そこで教師は“過程”の頑張りを評価するように努め、行事終了後は達成感や連帯感の高まり、感動を振り返らせ、今後に起こりうる困難にも同じように全体で立ち向かっていく集団であるよう伝える。

【体育祭後のショートホームルームの例（20分）】

活動内容	指導上の留意点
・教師による、体育祭の感想と生徒全員の頑張りへの評価・賛辞を聞く 【5分】	・順位（結果）ではなく軍団全体が結束できた「過程」に価値があることを伝える。 ・過程で起こった困難についても自分達で解決し乗り越えたことを評価する。
・団長をはじめ各リーダーが1言ずつクラスメイトへの感謝の言葉を述べてもらう。 【5分】 ※感想ではなく、感謝の言葉にすることでクラスメイトの自己有用感が向上し、リーダーのリーダーシップの高まりも実感できる。	・1人ずつに拍手をすることで、リーダーをはじめとした全員の達成感・満足感、学級への所属感を再確認できる。 ・本番で味わった「感動」をかみしめる雰囲気醸成する。
・生徒全員が「自分が頑張ったこと」「仲間との関わりで気付いたこと」などを簡単な振り返りシートに書く。 【10分】	・特定の生徒の頑張りではなく、下級生も含めた全生徒が貢献していたことを客観的にも評価する。 ※リーダー以外の生徒は、リーダーへの感謝や賛辞も書かせると、後でリーダー達への評価としても利用できる。

※ロングホームルーム等で時間が確保できる場合は、より細分化された振り返りシートを用意するとよい。

※学校新聞等で体育祭の各軍団の成功の様子を全校生徒に知らせたり、保護者に発信したりすることは、生徒の活動がより広く評価されることになる。それにより生徒の感動や自身で問題を乗り越えたという成長実感はより高まる。

体育祭だけにかかわらず、学校行事においては、集団の目標や評価は「頑張った」「楽しかった」といった連帯感や達成感を第一とできるような導きをすることが、人間関係のトラブルを防ぐ上で必要である。そして、行事を通して得た感動や一体感、問題解決力や人間関係構築のスキルは、自己有用感を高めることにつながり、いじめの未然防止の最大の武器となる。

また、いじめを未然に防ぐ力のある集団、あるいは個人の育成は今後の生き方・あり方にも通じる。人間関係や生き方・あり方につながる学びを促す機会として学校行事をとらえる姿勢が大切である。

- 教師が生徒間の温度差や活動の進捗状況を適切に把握し、いじめやトラブルのきっかけが生じやすい場面では必要な助言で活動の成功に導くことが、学校行事をいじめ防止につながる充実した体験にする。
- 一方で教師は生徒を信じる姿勢をもつ。その中でリーダーを中心に自分たちで予想されるトラブルや困難を考え、事前に対応策を立てることで、生徒自身の問題解決力が磨かれる。
- 学校行事のもつ自主的・協働的活動のよさを活かして集団としての連帯感や問題解決力、個人としての自己有用感を育む活動にすることが、いじめの未然防止への大きな力となる。